

6月になった。この4月から新しい環境に飛び込んだ方も多いいことだろう。我が幼稚園の4歳児クラスの子どもたちと保護者もそうである。すぐ隣の小学校1年生もそうである。中学1年生、高校1年生もそうである。社会人1年生もいる。そして、私も一応そうである。

4歳の子が、幼稚園に通ってきて、1日6時間近くを過ごすのは、並大抵のことではないだろう。預かり保育になると、1日8時間もいることになる。この時間で、経験できること、考えること、身に付けることは、たくさんある。それこそ、日々成長である。

先日、5月のお誕生会を開いた。4月にも行った。約1か月が経過して、明らかに違ったことがあった。4歳児たちの態度である。4月のときは、5歳児と比べると、落ち着きはなかった。当たり前である。自然なことであろう。ところが、5月はというと、5歳児と変わらなかった。こんなにも変わるものなのか。「えんちょうせんせいのおはなし」の中で、そのことをほめた。集団で学ぶこと、環境が作り出すものは大きいと言わざるを得ない。

中学校の部活動に行っている。新入部員である1年生は、2・3年生と比べると、かなり違っていた。やむを得ないことである。ところが、日に日に変わっていった。反応がよい。吸収力がある。きっと、授業とは違う表情を見せていることだろう。今日は、福島支部中体連総合大会の日である。1年生たちは、先輩の応援をしながら、多くのことを学ぶことになるだろう。成長のための1日となる。

社会人はどうだろう。仕事となれば、学校とはかなり違う。この2か月間が重要だったのではなかろうか。果たして、軌道に乗ってきただろうか。思い悩んでいることも多いだろう。抱いていたイメージとのギャップに苦しむこともあるだろう。すべてが、自分の成長につながる。決して逃げないことである。まわりに相談することも大切である。人に話すだけでだいぶ違う。

さて、自分はどうなのか。この2か月で、少しは幼稚園教育というものが分かってきたように思う。本や資料を読んだ。いわゆる理論である。そのうえで、子どもたちを見る。先生方の働きかけを見る。これが、実践にあたる。なるほど、そういうことか。理論と実践が結びつく。だが、まだまだ視界良好ではない。暗中模索、試行錯誤は続く。そもそも、わからないことにチャレンジした方がおもしろい。

6月と言えば梅雨だが、熱中症のシーズン到来でもある。健康管理が欠かせない。どの1年生もそれぞれの場所で輝いてほしい。1年生は、成長できる大きなチャンスである。チャンスは逃さないほうがよい。1年生というのは、長い人生の中で、一度しかないものである。そう考えると、どの1年生も大切なものに思えてくる。